

12. *Chlamydia pneumoniae* 慢性感染症の病態に関する検討

深野 浩史

指導教授：松島 敏春

〔目的〕 *Chlamydia pneumoniae* は呼吸器感染症の主要原因菌として知られているが、近年種々の研究によって他臓器における慢性疾患との関連の可能性が指摘されている。現在 *C.pneumoniae* の診断は主に血清診断でなされているが、慢性持続感染症の診断には不向きでありその診断に遺伝子診断法が導入され応用されている。今回私共は *C.pneumoniae* 慢性感染症における Polymerase Chain Reaction 法の有用性を検討する事を目的としている。

〔方法〕 まず、基礎的な検討として私共の作成した PCR primer と既存の primer を高純度精製菌体を用い感度検定を行った。次に健常人の末梢血リンパ球を用いて *C.pneumoniae* の検出を試み、これが基礎的な結果と反映するか否かも検討した。

〔結果と考察〕 基礎的検討では、私共の作成した primer は既存のものと比較して同等以上であり咽頭スワブや喀痰からの検出には有用であると考えられた。現在、末梢血からの検体を行っておりその有用性を検討している。今後は呼吸器慢性疾患（喘息や COPD）との関連性を検討していく予定である。